

## 学会トピックス

## 第32回日本アフェレシス学会学術大会印象記

三 和 奈穂子

東京女子医科大学血液浄化療法科

平成23年9月30日, 10月1日, 10月2日に第32回日本アフェレシス学会学術大会が秋葉 隆大会長のもと, 「アフェレシス医療の今日と明日」をメインテーマに掲げ東京都千代田区都市センターホテルにて開催されました。

今回は大震災の影響のため演題募集開始当初は集まりが悪く, 例年通り開催できるか不安がありました。しかし評議員をはじめとする多くの先生方のご助力により, 最終的には特別講演3題, シンポジウム31題, 教育講演4題, ワークショップ37題, Late breaking clinical trial 3題, 技術講習会7題, イブニングディベート4題, モーニングセミナー1題, ランチオンセミナー11題, 一般演題77題で総計178題と多くの企画を組むことができました。学会当日は, 幸い天候にも恵まれ学会参加者数は900名を超え, 各会場では熱気をおびた討議がもたれました。

大会長挨拶のあと, 米川元樹先生(札幌北楡病院)よりアフェレシスにおける諸治療算定のための実態調査についてアンケート結果の報告があり, その結果に基づき平成24年の診療報酬改定の際には処置料を4,800点で要望するとまとめられました。

今学会では新しい企画として, イブニングディベートを取り入れました。「DFPPにおける低アルブミン血症を避ける」というテーマのもとで阿岸鉄三先生(東京女子医科大学名誉教授)からDFPPの原理とある使用条件下においておこる低アルブミン血症についての対応について, 峰島三千男先生(東京女子医科大学臨床工学科)から治療中におこる循環血漿量の減少という水分移動を加味した新たな compartment model を用いた置換液量・濃度設定法を, 古賀伸彦先生(新古賀病院循環器内科)から recirculation 法を用いた modified DFPP を, 久木田和丘先生(札幌北楡病院)からは cryofiltration における二次フィルター洗

浄法の改良についてご講演いただき, それらに対し会場の参加型の活発な議論が行われました。セッションの時間は150分と今学会最長でしたが, 議論を交わすうち瞬く間に過ぎていきました。

特別講演では3人の先生にご講演をお願いいたしました。

Asian Session を開催することはできなかったのですが, HE YANI 先生(Third Military Medical University)より「中国の血液浄化療法の状況」についてご講演をいただきました。中国では透析患者がここ1~2年のうちには30万人に達しようとしており, 日本が世界第3位に落ちる日も近く躍進するアジアの力を感じました。

山中寿先生(東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター)より関節リウマチ治療の Care から Cure へのパラダイムシフトを生物学的製剤だけでなく, アフェレシスも交えてご講演いただきました。その後のワークショップでもリウマチ治療におけるアフェレシス治療の位置付けについて豊富な経験が披露されました。

急性血液浄化の分野にも焦点を当て, シンポジウム, ワークショップ, および特別講演を組みました。

Cruz 先生(Department of Nephrology, San Bortolo Hospital)をイタリアより招聘し, 特別講演「EX-TRACORPOREAL THERAPIES IN SEPSIS」をご講演いただき, また, 救急領域におけるアフェレシスとして現在の救急領域における血液浄化の最新事情を, また, サイトカイン除去療法の展開としてこれからの救急領域における血液浄化の進む方向を, 各分野の専門の先生方より話題提供をいただき, 活発な討論がされました。一般演題においても, エンドトキシン血症や多臓器不全への血液浄化の多くの症例が報告され, この分野のアフェレシスの有効性が示されたように考



写真1 学会会場風景

えます。

その他、医療安全や分離技術の基礎と臨床、蛋白結合型尿毒素の効率的な除去、炎症性腸疾患、肝不全・肝炎、神経、皮膚、心臓、腎臓、移植、小児と多岐にわたる分野でのアフェレシス治療最前線も数多く報告され、アフェレシス療法の更なる可能性が活発に議論されました。多くの先生方のご経験をご発表を拝聴し大変勉強になりました。

技術講習会も7題を開催し、講師の先生方には非常にわかりやすく、また実践的なご指導をいただき、これからのアフェレシスを担うコメディカルの育成にも貢献できたのではないかと考えております。アフェレシスは、医師とコメディカルのチーム連携が非常に重要であり、技術講習によるチーム全体の技術力向上は、

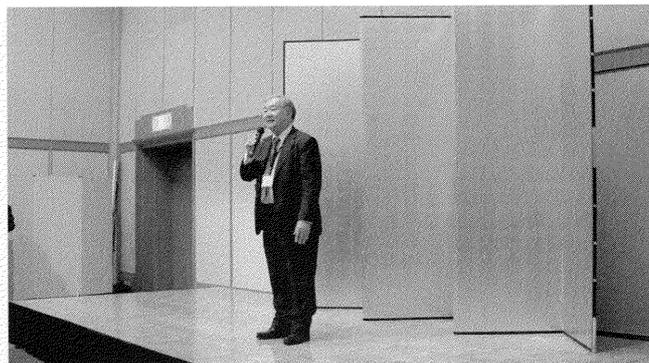


写真2 ご挨拶される大会長・秋葉 隆先生

必要不可欠であることを本講習会を拝聴して実感いたしました。

モーニング、ランチョン、イブニングディベート等のセミナーも、早朝あるいは夕方遅くまで、多くの先生方にご参加いただき、非常に盛況であり、演者の先生方や共催の企業の方にも大変感謝しております。

懇親会も、前年のようなキャラクターのサプライズはありませんでしたが、会員の方々に多くご参加いただきました。またCruz先生にもご参加いただき、交友そして情報交換の場として、楽しんでいただけたと思います。

第33回大会は平成24年11月8日～10日に長崎（大会長：松尾秀徳先生、国立病院機構長崎川棚医療センター神経内科）で開催されることになっております。